

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT



Round.7

AUTOPOLIS GT 450km RACE

2023年10月14日(土)～15日(日) オートポリス(大分県日田市)

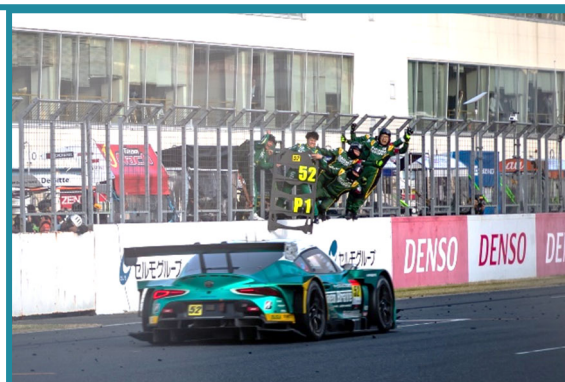
■ ■ ■ チーム力で達成した2連勝!! タイトルに王手をかけ最終戦へ ■ ■ ■

第7戦のレース距離はオートポリス大会初の450km。ドライバーは吉田、川合のレギュラー2選手と、TOYOTA GAZOO Racing 育成ドライバーの野中誠太選手です。土曜日(予選日)の天候は曇。95分間の公式練習は9時25分から行われ、吉田選手がコースイン。走り出しからペースは良好で、4周目に1分43秒933のトップタイムをマークします。9時50分から川合選手、10時30分から再び吉田選手がステアリングを握り、3位で終了。決勝を想定したロングランの確認も行い、ポジティブな状況です。

ノックアウト予選(Q1)は15時から行われ、GR SupraはA組に出場。ドライバーは川合選手です。1分ほど待機してからコースに入り、4周目に1分43秒327をマーク。2位に入り、2戦連続のQ1突破を達成しました。Q2は吉田選手が担当。ミスがあったと言うものの、4周目に1分43秒227をマーク。4位で予選を終え、2列目グリッドを確保しました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。チームはスタートドライバーに川合選手を起用。序盤から川合選手を含む上位4台のGTA GT300勢がレースを引っ張ることが予想されるため、展開を見ながら2回の給油義務をこなし、吉田選手につなぎます。川合選手は4位をキープして1周目を終了。予想通り上位4台が5位以下を引き離しています。5周目の終わりに3位の#31レクサスLCがピットに入りますが、川合選手は走行を継続。すると8周目に#61BRZ、18周目に同じブリヂストンタイヤを使用する#2GR86をパスし、トップに立ちます。川合選手のペースは良好で、周回を重ねるごとにリードを拡大。#2GR86がピットインした30周時点での2台の差は12秒です。川合選手は翌周にピットイン。タイヤの状態は想定通りのため、給油のみの作業でコースに復帰します。川合選手の順位は2位。トップの#56GT-Rはピットに入っていないため、事実上のトップです。川合選手のペースは衰えることなく、周回を重ねるたびに#56GT-Rとの差を短縮。そして45周目、トップの#56GT-R、川合選手、3位の#31LC500hが同時にピットに入ります。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウト。鍛え抜かれた5人の店舗メカニックの作業により、3台の中で最も早くコースに復帰します。

吉田選手の順位は6位ですが、上位はみな、ピットインを残しているため、事実上のトップです。62周目、上位のピットインにより、吉田選手はトップへ。しかし、後方から57周目に2回目のピットインを行った#2GR86が猛烈な追い上げを見せており、72周目にはコンマ5秒差となります。タイヤが新しい分、#2GR86に有利な状況ですが、吉田選手は集中力を切らさずディフェンス。チャンピオン争いを有利に進めるためには、絶対に先着しなければなりません。チームも無線でコースの状況を伝えるなど、吉田選手の力走をバックアップ。テールトゥノーズの息詰まるバトルが続きますが、80周を過ぎたあたりから、#2GR86のペースが鈍ります。吉田選手はGT500と周回遅れのGT300車両の処理に気を付けながらトップの座を守り切り、91周目にトップチェッカー。わずかコンマ6秒差の薄氷を踏む勝利でした。なお、野中選手は出場機会こそなかったものの、2人のドライバーをピットでサポート。吉田、川合両選手と共に表彰台に登壇し、確かな足跡を残しました。



決勝結果 (GT300クラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰/野中誠太)

決勝: 1位 (91周、2時間52分08秒683)
予選: 4位 (Q2: 1分43秒227)

■ DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

店舗から来たメカニックが、今回も完璧なピット作業で送り出してくれました。はじめは戦っている相手が見えない状況で、約50周の長いステイントでタイヤをもたせないと、ということ意識して走っていました。すごく難しい展開のレースとなり、自分もチームに厳しいことをはっきり言ったのですが、それに対してチームは精一杯、できる限りサポートしてくれました。それがあってこそこの優勝です。最高のクルマを用意してくれたので、最終戦もチームのみんなと同じようなレースができたかと思っています。#2GR86と20ポイント差がありますが、もてぎのテストですごく速く、最終戦でポールをとられてしまうのではと感じています。油断せずに、全力で優勝を目指して、チャンピオンがついてくればいいのかと思っています。



川合孝汰 選手

最終的にはトップに立てましたし、自分の中でも走りに関してはそこそこいい走りができたと思っていますが、吉田選手に交代する前の数周、若干タイムをおとしてしまったので、もうちょっとマージンを作ることができれば、吉田さんのパートをもっと楽にできたのかなという思いがあります。今回の結果で、チャンピオン争いに向けてはほぼリーチということになりますが、ポイント差が開いても、ぼくらとしては、そこで守りに入るのではなく、Green Braveのチーム力を決勝でお見せし、もてぎでも強いねと言ってもらえるような、そんなレースをして、最終的にチャンピオンという形で返ってくればいいかと思っています。目の前のレースで勝つということにしっかりと集中して頑張りたいと思います。



野中誠太 選手

今回この場にいられることも、関係者の皆様の協力があるので、このような優勝のタイミングで色々学ぶことができました。昨日からGreen Braveに帯同して、チームの戦略とか、本当に手堅くこの優勝を狙っていて、ドライバーとして勉強になる部分でした。最後はギリギリの戦いでしたが、チャンピオンに向けてふさわしいレースだったのかなと思います。今回乗る機会はありませんでしたが、吉田選手と川合選手のドライビングやレースの組み立て方から、自分も今後につながるものがたくさんあると思うので、この経験を糧にぼく自身もまた乗るチャンスがあれば頑張りたいと思います。



GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR Supra)	91周
2位	muta Racing GR86 GT(トヨタ GR86)	91周
3位	apr LC500h GT(レクサス LC500h)	90周
4位	SUBARU BRZ R&D SPORT(スバル BRZ GT300)	90周
5位	リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	90周
6位	グッドスマイル初音ミク AMG(メルセデス AMG GT3)	90周

天候:晴 路面:ドライ ※トップ6まで(出走25台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	88
2位	2	muta Racing INGING	66
3位	56	KONDO RACING	62
4位	7	BMW Team Studie×CRS	61
5位	61	R&D SPORT	55
6位	18	Team UPGARAGE	50

トップ6まで

【次戦予告】 第8戦 11月4日~5日 モビリティリゾートもてぎ (栃木県茂木町)

■ PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



小倉クラッチ株式会社



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社セーフティライフ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC

※50音順